

学校教育目標	夢と志をもち、未来を切り拓く子どもの育成	経営理念	学校内外の教育環境を最大限に活用し、次世代を担う人づくりを行うとともに、地域とともに発展する学校を創る。
--------	----------------------	------	--

評価計画							自己評価			学校関係者評価		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月					
確かな学力の向上	1	自ら学ぶ子どもの育成	情報活用能力の育成	情報活用能力の育成に係る実践研究	・児童アンケート	肯定的評価: 95%以上	92%	87.7%	B	・児童アンケートの主体的な学習における肯定的評価は、授業前、高学年93.4%、低学年85.9%、授業後は、高学年が88%、低学年は83.7%であった。全体の肯定的評価は、87.7%であった。 ・高学年の授業前の主体的に学習に向かう児童が増えており、前時の振り返りから、新たな課題を見つけて主体的に学習に取り組もうとしている児童が多いと思われる。	A	・主体的な学習を進めるうえで、児童に「課題意識をもたせること」「振り返りをさせること」を大切にしている点は大変良い。 ・学習にチーム・グループを工夫して、様々な方法で興味を持たせようとし、しっかり取り組んでいる。 ・情報活用能力の育成が学力にどう反映されてきたかということについても評価してほしい。	・協力的な学び、対話的な学びを生かした授業研究を行い、児童が主体的に学習に取り組む授業づくりを継続する。
			基礎学力の定着	個別プリント・タブレットドリル学習の推進	・業者テスト国語(知識・理解) ・業者テスト算数(知識・理解)	80点以上の児童 80%	国算 88%	国算 87%	B	・業者テスト(知識・理解)の80点以上の割合は国語が86%、算数は87%であった。 ・各学年の課題を分析し、朝学習で計画的に漢字の復習や計算の習熟を行ったり、小テストを効果的に実施したりすることにより、少しずつ基礎的な学力が定着してきている。	A	・基礎学力もしっかりと定着していると思う。 ・学力の低い子達への手立ても考えようとしていることは良い。	・継続して、計画的に課題につなげるドリル学習を実施して基礎学力の定着を図る。 ・個に応じた指導を全職員で行えるような仕組みを整える。
豊かな心の育成	2	思いやりのある子どもの育成	あいさつの定着	児童会、PTA、地域との連携・協力	・児童アンケート ・保護者アンケート	肯定的評価: 80%以上	児童 80% 高91.7%	児童 80.1% 高94.4%	B	・児童アンケート「登下校時、地域の人にあいさつしていますか」に対しては、低学年が80.1%、高学年が94.4%であった。どちらの質問項目についても、9月の結果を上回った。一方、保護者アンケート「本校の子供たちは、あいさつや返事ができている」に対して肯定的評価は58.4%であった。あいさつ運動の取組により、子どもたちのあいさつに対する意識も高くなった結果であると考える。	B	・挨拶運動を地域と一体となって取り組むことは大変有効である。児童が生活する家庭・地域・学校で連携し合い、取り組んでいくことが大切である。そうすることにより定着し、児童と保護者のアンケートの結果のギャップも小さくなるのではないかと。 ・高学年が声を出し、低学年に教える。多くの地域の人との関わりがあることよい。	・児童においては、あいさつ運動の実施によって、あいさつについて一定の意識付けができたと考え、来年度もあいさつ運動を実施していき、更なる向上を図りたい。 ・保護者も巻き込んだあいさつ運動を実施していくことも視野に入れ、来年度の計画を立てる。
			支持的風土の醸成	・異年齢集団活動の推進 ・児童会活動の充実	・保護者アンケート ・児童アンケート	肯定的評価: 95%以上	児童 92.6% 高98.8%	児童 92.8% 高98.3%	B	・児童アンケート「友達の良いところを褒めて行動していますか」に対して肯定的評価をした児童の割合が低学年が92.6%、高学年が98.3%であった。高学年において、9月の結果を上回った。 また、保護者アンケート「自分の子どもは、思いやりのある優しい心が育っている」に対して肯定的評価は94.4%であった。	A	・縦割り班活動を行うことは、高学年児童のリーダーシップの育成を図る上で、効果的である。高学年児童が良い手本となる活動ができれば、下級生にも浸透し、憧れの存在になり、さらなる学校全体の活性化につながる。 ・高学年への指導があつてこそ成立しており、指導ができていくことが良い。児童会中心の班編成も期待したい。	・次年度も、縦割り班編成をし、掃除活動を中心に、縦割り班活動を行う。 ・「龍王の絆」や「6年生を送る会」等、児童が主体となって企画・運営できる児童会行事を実施する。
健やかな身体力の育成	3	自ら安全や体力向上意識して生活できる子どもの育成	食育の充実	食育指導の充実	・残食率(東広島学校給食センター内)	3.5%以下	4.5%(7月)	4.5%(1月)	B	・一人一人が完食に向けて取り組むことで、残食率は減少傾向にある。 ・給食委員会が主体となり、完食キャンペーンを3回実施できた。 ・2月の完食キャンペーンでは、より給食を楽しくするように、大休憩の外遊びを呼びかけた。	B	・残食率は、家庭との連携が必要である。学校の取組を発信することにより、保護者の意識改革を図っていくことよい。 ・給食委員会が中心の取組が良い。	・完食キャンペーンを定期的に行い、完食に向けて意識が継続するようにする。 ・栄養士を招いての食育指導を各学年で実施する。
			体力の向上	・外遊びの励行 ・固定遊具等を活用した体育授業の工夫	・新体カテスト課題種目(50M走、握力、ソフトボール投げ)結果	前年度値以上	53%	92%(2月)	B	・50M走と握力を再測定し、92%が前年度の数値を上回っていた。 ・感染症対策が定着してきたことで、ロング屋休憩を8回実施することができた。	B	・ボール投げの取組は有効である。投げる角度の大切さがよくわかる。手作りの用具から先生方の態度が伝わってくる。 ・新体カテストの結果について、前回のと比較はよくわかるが、全国平均との比較で実感がどうなのかわかりにくい。 ・評価導入、がんばりが見える化していることがよい。委員会中心であることよい。	・新体カテストの目標数値を挙げる。 ・龍王サーキット・体育朝会・ロング屋休憩を引き続き実施する。 ・スポーツ委員会など、児童主体で遊びの場を計画・実施する。
働き方改革の推進	4	業務改善の推進	児童と向き合う時間の確保	・学校行事等の精選 ・教科担任制の推進 ・学校運営協議会とPTAとの連携による開かれた学校づくり	・教職員アンケート	肯定的評価: 80%以上	51.1%	67.1%	B	・教職員アンケートは、67.1%で9月よりも肯定的評価が上がった。 ・高学年における教科担任制の推進や経営推進委員会や学年主任会での業務改善に向けた協議を行ったことにより、少しずつ適切な時間管理が行えるようになってきている。 ・PTAボランティアの取組が本格始動した。	B	・働きがいがあると答えた先生が多く、望ましい形になっているのではないかと、今後も勤務時間外の「在校時間」を縮小しながら、元気に職務を遂行してほしい。 ・楽しい職場が一番。苦を分かち合っていることは素晴らしい。事務仕事は減らしていく方向に。	・経営推進会議や学年主任会において、業務改善についての検討を行う。 ・PTAの協力を得ながら、PTAボランティア活動を活性化させる。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■学校関係者評価
 A...とても適切である B...概ね適切である
 C...あまり適切でない D...全く適切でない
 (N...判定できない)